



平成24年度グローバル人材育成推進事業（特色型）に農学部のプログラムが採択

概要

若い世代の「内向き志向」を克服し、国際的な産業競争力の向上や国と国の絆の強化の基盤として、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる「人財」の育成を図る文部科学省の補助事業「グローバル人材育成推進事業」の特色型（タイプ B）に、本年度、本学農学部のプログラム「国際的視野を持ったアグリバイオリダーの育成」が採択されました。

背景

「グローバル人材育成推進事業」は、国公私立大学を対象に、若い世代の「内向き志向」を克服し、国際的な産業競争力の向上や国と国の絆を強化する基盤として、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる「人財」の育成を図るため、大学教育のグローバル化を推進する取組に対して重点的に財政支援を行う、本年度から実施する文部科学省の事業です。

本年度は、タイプ A（全学推進型）に 41 大学の申請から 11 大学、タイプ B（特色型）に 111 大学の申請から 31 大学のプログラムが採択されました。（各タイプとも 1 大学 1 件を限度に申請可）

（文部科学省 URL）

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/09/1326068.htm

内容

今回、採択を受けた本学農学部のプログラム（タイプ B（特色型））の概要は以下のとおりです。

【国際的視野を持ったアグリバイオリダーの育成】（別添資料）

本学農学部が望むグローバル人材像は、『次世代農学（アグリバイオ）の広範な基礎知識と各々の専門分野の知識・技術を修得し、農学を取り巻く地域・地球規模の課題を解決するための汎用技能（多文化・異文化に対する知識、問題解決力、論理的・創造的思考力等）と俯瞰的視野を持って把握し、国際的にリーダーシップを発揮できる人材』と捉えています。そのようなグローバル人材を育成するために、本構想では、次のような特色あるプログラムを実施します。

- 1) 平成 21 年度より農学部生物資源環境学科は、秋入学の国際コース（グローバル 30（以下「G30」）の取り組みとして、英語による授業のみで学位が取得できるコースを平成 22 年 10 月に開設）入学試験を行っており、毎年、外国人留学生を 10 名程度選抜しています。入学した外国人留学生の英語レベルは、約 80%が TOEFL-iBT スコア 80 以上です。国際コースは完全英語講義のカリキュラムであり、このコースに、英語のレベルが一定の水準（TOEFL-iBT スコア 80 相当）以上の一般選抜の日本人学生をクラス共有させ、英語で講義を受講することで、コミュニケーションツールとしての英語力アップの環境、異文化理解の機会を与えます。
- 2) 英語のレベルが一定の水準に達していない学生に対しては、英語基礎力強化プログラムを受講させ、半年後に再チャレンジさせることにより、クラス共有可能な学生数を増加させます。
- 3) クラス共有を許可された日本人学生には、英語力の更なる向上のため、英語力強化プログラムを受講させ、同時に英語によるディベート・プレゼンテーション技術、英語レポート作成等のグローバル汎用技能を磨きます。
- 4) さらに、G30 国際コースの外国人留学生とクラス共有を許可された日本人学生には、農学を取り巻く地域・地球規模の課題を解決するための汎用技能を修得させるため、英語による問題解決の科学プログラム（Problem-based Learning）を受講させます（実施場所は、欧米及び ASEAN 諸国の学生交流協定校）。

- 5) クラス共有を許可された日本人学生の中で特に英語力が優れている学生 (TOEFL-iBT スコア 100 相当以上) を特別選抜し、GRE (Graduate Record Examination)、TOEFL スコアアップ特別プログラムを受講させ、大学院進学後にフルブライト奨学金等の国際的な奨学金の獲得、欧米のトップクラスの大学院に入学可能なレベルまでのスコアアップを狙わせます。

以上の取り組みを実施することで、本学農学部が望むグローバル人材像である、国際的視野を持ったアグリバイオリーダーを育成します。

■効果

- 1) 日本人学生 (一般コース) と G30 外国人留学生 (国際コース) の学生をマージした教育体制 (英語による共通コースカリキュラム) を構築できます。
- 2) 一般コースと国際コースの単位互換可能な英語による共通授業を充実させることで、一定の水準以上の英語能力を持った学生が、英語でも日本語でも受講できるカリキュラム制度が構築できます。
- 3) 日本のみならず、地球規模の農学における実問題をターゲットにして、問題解決のための糸口、プロトコールを英語で理解することが可能となります。

■今後の展開

今回採択されたプログラムの実施を通じて学部教育のグローバル化を一層進め、1) コミュニケーションツールとしての英語能力の向上、2) 地球規模の農学における実問題をターゲットに、英語を用いた討論型問題解決の科学講義を通じた論理的思考能力の修得を取り組みの主体とし、大学内外へ質の保証されたプログラムの展開を先導及び発信する役割を果たしていきます。

【お問い合わせ】

大学院農学研究院 主幹教授 岡本正宏
電話：092-642-6691
FAX：092-642-6744
Mail：okahon@brs.kyushu-u.ac.jp

【国際的視野を持ったアグリバイオリーダーの育成】

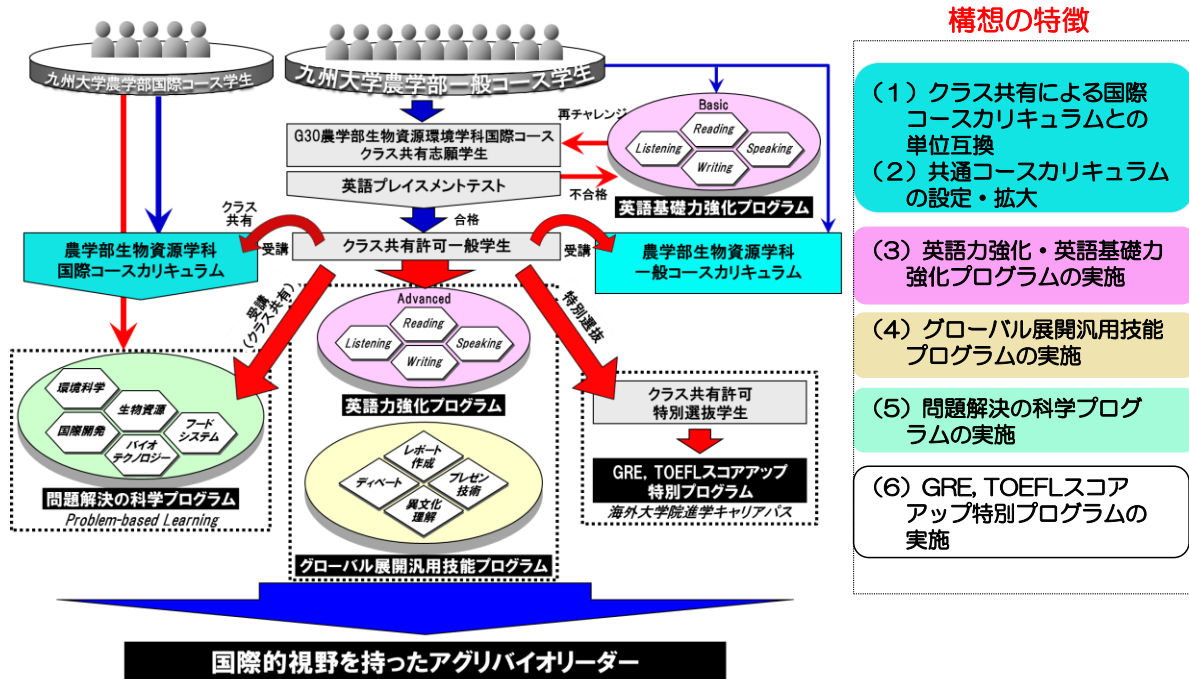
実施責任者： 農学研究院長 吉村 淳
 実施担当者： 農学研究院副研究院長 中尾実樹
 農学研究院主幹教授 岡本正宏

【概要】本構想は、国際的視野をもったアグリバイオリーダー人材育成プログラムであり、その理念は、平成 24 年度で第 3 期生入学となる、九州大学農学部生物資源環境学科国際コース (G30) の外国人留学生 (毎年 5~10 名程度) と農学部一般入試で入学した一般学生の 1~2 割程度 (毎年 20~46 名程度) をクラス共有させ、英語で行われる講義科目を受講し、それらの講義科目に相当する日本人一般学生用講義科目との単位互換を行うことで、クラスを共有する一般学生が、英語を通してアグリバイオの広範な基礎知識や専門分野の知識・技術を学ぶことへの障壁を解消させることにある。この構想実現のために、具体的には、以下の取り組みを行う。

- 1) 下記の農学部国際コース学生とのクラス共有を志願する農学部一般学生に対しては、英語の 4 技能 (リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング) をチェックする英語プレースメントテストを受験させ、一定のレベル (TOEFL-iBT 80 相当) 以上の一学年 20~46 名程度の農学部一般学生を選抜する。一定のレベルに達しなかった志願学生には、英語基礎力強化プログラムを受講させ、再チャレンジを可能にする (半年間受講後、プレースメントテスト再受験)。
- 2) 選抜された 20~46 名程度の農学部一般学生と 5~10 名程度の農学部国際コース学生のクラス共有講義 (語学科目を除く G30 学生用の全学教育科目と専攻教育科目の一部 (英語による授業)) を開講・受講させ、一般学生用の講義科目との単位互換を可能にする。したがって、クラス共有を許可された一般学生は、通常の一般学生用の講義科目 (必修、必修選択、選択) とクラス共有講義科目 (必修、必修選択) の両方を受講できる (卒業修了要件単位数は通常一般学生と同じ)。
- 3) クラス共有許可の一般学生に対しては、英語のプレースメントテストによるクラス分けを行い、英語力強化プログラム (学部 3 年間) を履修させる。さらに、九州大学と学生交流協定を締結している米国大学や City University of Hong Kong 等に優先的に短期留学させるシステムを確立する。
- 4) さらに、本プログラム受講生から特に優秀な学生 (各学年あたり、4~5 名程度、TOEFL-iBT 100 相当以上) を選抜し、米国等の一流大学の大学院進学候補者あるいは、九州大学大学院進学後のフルブライト奨学金奨学生候補者として位置づけ、GRE、TOEFL 等のスコアアッププログラムを受講させる。
- 5) クラス共有許可の一般学生には、TOEFL-iBT を定期的に受験させ、英語力のグレードを常にチェック・指導する体制を確立する (TOEFL-iBT 80 相当以上を維持させる)。スコアによっては、クラス共有と英語力強化プログラムの受講を不許可にし、クラス共有の質の保証を確保する。
- 6) クラス共有の学生 (国際コースの留学生+クラス共有許可一般学生) には、通常カリキュラムに加えて、日本・ASEAN 農学における最重要で未解決な問題解決の科学プログラム関連講義科目 (Problem-based Learning (英語による講義)) を設定し、その講義科目の受講を必修とすることで、英語によるプレゼン能力、ディベート、問題に対する解決策の提案能力等のグローバル展開汎用技能を修得させる。受講場所は、九州大学農学部および ASEAN 学生交流協定校とする。必要単位数を修得した学生には、卒業時に、九州大学農学部より修了認定証を発行する。

【育成するグローバル人材像】九州大学農学部が望むグローバル人材像は、『次世代農学 (アグリバイオ) の広範な基礎知識と各々の専門分野の知識・技術を習得し、農学を取り巻く地域・地球規模の課題を解決するための汎用技能 (多文化・異文化に対する知識、問題解決力、論理的・創造的思考力等) と俯瞰的視野を持って把握し、国際的にリーダーシップを発揮できる人材』と捉えている。また、そのような人材は、大学・研究所のみならず、官公庁、政府機関、商社を含む国内外民間企業、国連、国際協力機関、NPO 等が望むアグリバイオリーダー像と合致する。

【構想の概要図】



構想の特徴

- (1) クラス共有による国際コースカリキュラムとの単位互換
- (2) 共通コースカリキュラムの設定・拡大
- (3) 英語力強化・英語基礎力強化プログラムの実施
- (4) グローバル展開汎用技能プログラムの実施
- (5) 問題解決の科学プログラムの実施
- (6) GRE, TOEFLスコアアップ特別プログラムの実施

【日本人学生と国際コース (G30) 学生とをマージした教育体制 (英語による共通コースカリキュラム) の確立】

第1期 (5年間) の推進事項

- (1) ある水準以上の英語能力を持った学生が、英語、日本語どちらでも受講できるカリキュラム制度の構築
- (2) 日本人学生と国際コース (G30) 学生とをマージした教育体制 (英語による共通コースカリキュラム) の確立
- (3) 英語基礎力プログラムを充実させ、クラス共有が可能となる学生の割合の増加
- (4) 短期の海外留学をさせる大学の選定・留学期間の設定 (年間8名以上を短期留学 (3か月~1年) させる)
- (5) 日本人学生の春入学に加えて秋入学の実施
- (6) 理系学部での英語研修プログラム設置 (英語で学ぶアグリバイオプログラム設置)
- (7) 海外大学院進学へのキャリアパス作り

